

userweb/HPオプションサービスのSSL化 移行手順

移行手順

作業を行なう前に、念のためホームページデータのバックアップをとっておくことをお勧めします

STEP 1

「https://」で公開するデータを準備

STEP 2

各種CGI・ツールの設定の見直し

STEP 3

「http://」から「https://」へ転送設定(弊社作業)

STEP 1 「https://」で公開するデータを準備

SSL化するホームページでは、各ページで使用される画像やリンクなどすべてのコンテンツを「https://」で配信するために、ホームページを構成するHTMLなどのソースコードの記述を修正する必要があります。お客様のソースの記述をご確認下さい。

現在の設定が相対パスの場合

現在のファイルの位置を基準にしたパスの記述方法です。参照するファイルの位置関係が変わらなければ、リンクやパスの修正は不要です。

- 1 ``
- 2 ``

現在の設定が絶対パスの場合

ホームページのURLでページやファイルを指定して、情報の位置を確実に伝える記述方法です。SSL化に伴って参照するURLが変わりますので、リンクやパスの修正が必要になります

修正前

- 1 ``
- 2 ``

修正後

- 1 ``
- 2 ``

STEP 2 各種CGI・ツールの設定の見直し

各種CGIをご利用の場合

HTTPSに対応したCGIへ変更が必要となる場合がございます。CGIが動作しないなどの不具合が起きた場合はCGIの提供元にご確認ください。

Googleが提供するツール(Google Analytics やGoogle Search Console など)をご利用の場合

Google AnalyticsやGoogleSearch Consoleなど、Googleが提供するツールをご利用のお客様は、管理画面より、URLを「https://」で始まるよう変更をお願いします。設定変更を忘れると、いままで使っていた機能が使えなくなります。

STEP 3 「http://」から[https://]へ転送設定(弊社作業)

現在の「http://」から「https://」への転送作業を弊社にて実施いたします。これにより閲覧者が「http://」にアクセスしても「https://」のホームページが表示されるようになります。自動的に転送されますが、「https://」へURLが変更となりますのでブックマーク変更を促す告知や名刺の印字等の修正を行ってください。

SSL化に伴うホームページのセキュリティ強化について

userwebサービスのSSL化対応により、インターネットブラウザのより安全性の高い通信暗号化方式「TLS1.2」へ強化を行います。それに伴い「TLS1.2」に対応していないの一部ブラウザと端末でホームページが閲覧できなくなります。「TLS1.2」未対応のブラウザをご利用の方は以下のバージョンのブラウザをご利用ください。

TLS1.2対応ブラウザ			ブラウザバージョン
PC	Windows7以上	Internet Explorer	8以上
		Mozilla Firefox	27以上
		Google Chrome	30以上
	Mac OS 10.9以上	Safari	7以上
スマートフォン	Android 4.4以上	Androidブラウザ	4.1以上
	iOS 5以上	Safari	5以上